



SSH「探究Ⅲ」課題研究最終報告会実施！

7月9日に、3年生が研究成果を発表するSSH「探究Ⅲ」課題研究最終報告会が宝山ホールで行われました。

国立研究開発法人科学技術振興機構、運営指導委員、教育関係者、保護者、中学生など多くの方に観覧に来ていただきました。また今年度は卒業生がTA（ティーチングアシスタント）として参加し、助言をくださいました。

事前練習会

最終報告会を直前に控えた7月4日に、3年生の各教室でポスター発表の事前練習会が行われました。本番を想定して発表をする様子が見られました。



▲ 本番に備えて入念に準備しました

ステージ発表

61期生の研究班は93班あり、そのうち5班がステージ発表を行いました。発表テーマは以下のとおりです。

「鹿児島県民の魚の消費量を向上させよう」
「チャコウラナメクジの交替性転向反応」
「水はけの悪いグラウンド」
「寝たきりの人が飲みやすい錠剤の条件について」
「鹿児島県産の食材を使って妊娠高血圧を予防しよう」

今年度も昨年度に引き続き、英語で発表する班がありました。これまでの研究成果を懸命に伝えようとする姿が印象的でした。質疑応答の時間には専門的視点からの質問をいただきながら質問に答え、指導助言では高い評価をいただきました。



▲ これまでの研究成果を発表しました

ポスター発表

ステージ発表以外の各研究班は、ホールの各フロアでポスター発表を行いました。1, 2年生が各自興味のある分野のポスターを探して、3年生の説明を聞いていました。TAや運営指導委員の先生方など観覧者からの質疑に真摯に答える3年生の姿が見られました。



▲ 事前練習会の成果を出すことができました

どちらの発表でも、各研究班が研究成果をしっかりと後輩に伝えることができました。今後1年生は、探究活動の班編成とテーマ設定を行います。今回の最終報告会を経験して自分が興味のある分野を見つけて研究をしてほしいと思います。

また、閉会行事では、今回TAとして参加した卒業生が「SSHでの経験は卒業後に必ず生きる。現在行っている大学の研究では海外での活動も予定している」と語り、生徒には大きな刺激となりました。これからも本校は「21世紀型郷中教育サイクル」の推進に取り組んでまいります。

2年生と1年生の学年間交流会

7月4日、SSHの活動として2年生と1年生の学年間交流会が行われました。この交流会は、SSH事業の一環として郷中教育のサイクルを確立させる目的で行っています。この交流会は1年生のグループが2年生の探究班を3つ訪ねて、それぞれインタビュー形式で、探究テーマを決めるに当たって気を付けたほうが良いことなどを質問してその内容をまとめるものです。

2年生は現在取り組んでいる探究活動を振り返り、面白さや難しさを後輩に伝える中で研究の方向性を再確認する手がかかりとなりました。1年生は2年生からテーマ設定のアドバイスをもらい、前期後半から始まる研究テーマ設定に向けてのきっかけを得ることができたのではないのでしょうか。



▲ 活発な質疑応答が行われました

鹿児島大学工学部の学生による助言

6月6日、6月20日、7月4日の3回に渡って、鹿児島大学工学部の4人の学生が本校を訪れました。2年生の「探究Ⅱ」のサポートで、レポートのまとめ方や発表の仕方（ポスターの書き方等）についての助言をお願いしました。大学生による熱心な助言を受けて、積極的に活動する2年生の姿が見られました。

学生の皆さんは「私たちがこのようなことを言っていたな、ということにちょっとでも興味を持って将来につなげてもらえたら」と話していました。



▲ 鹿児島大学工学部の学生の皆さんによる助言の様子
学生の皆さんありがとうございました

鹿児島大学教育学部との連携協定

5月26日、鹿児島大学教育学部と鹿児島中央高等学校は、課題研究等協力に関する連携協定を締結しました。今回の締結により、理学部・法文学部・教育学部の三学部と協定を結んだことになります。

この協定によって、今後は教育学部の専門性を生かしたご指導も受けることができるようになり、本校の探究活動がより一層充実したものになることが期待されます。



▲ 協定書締結式の様子

(左：野村義文本校校長，右：溝口和宏教育学部長)

エネルギー問題に関する講演会

6月6日に鹿児島大学の特命理事で消費生活アドバイザーの石窪奈穂美先生をお招きし、1年生を対象にエネルギー問題に関する講演会が行われました。エネルギー問題は私たちの暮らしに直結することから、この問題を自分のこととして考え、社会の在り方や暮らし方などを深く考えるきっかけを得ることができました。



▲ 石窪奈穂美先生による講演会の様子

発行：SSH推進部広報係
2025年7月発行